

## 「小幡小6年生と中学1年生の読み聞かせて読んだ本」 (情報担当の桐生かおる先生より)

『かべのおこうになにがある?』 BL出版

ブリッタ・テッケントラップ:作 風木一人:訳

\*「かべ」とは何かを改めて考えさせられる本。子どもだけでなく、大人にも読んで欲しい。自分でも「かべ」を感じた時、読みたいと思って実際に購入しました。カバーを取った本もステキな仕組みがあり、感動しました。



## 「友だちってなに?」

『きみの友だち』重松 清:作 新潮社

\*小学生の時に初めて読んだ本。自分にとって友だちとは何か分からなくなったときに読むとスッキリする。

あなたにとって大切なものは何ですか?

(ペンネームためきち)



## 「迷っている10代にぜひおすすめ」

『十五才 学校IV』山田洋次:作 角川文庫

\*中学3年生の主人公は、学校へ通う意味がわからず、半年間、学校へ行っていません。そんなある日、鹿児島県屋久島の樹齢7千年の縄文杉のことを知り、その木を見て触れることができれば自分は変われるのではと思い、ヒッチハイクで旅に出ます。

大阪からは女性ドライバーの長距離トラックに乗せてもらって自分の思いを語るなど、さまざまな人たちと出会いながら一人旅は進みます。

急ぐことはない、ゆっくり生きればいいんだと、応援したくなる本です。

映画にもなっています。縄文杉を見てみたい気持ちにもなります。

(中島校長先生)

